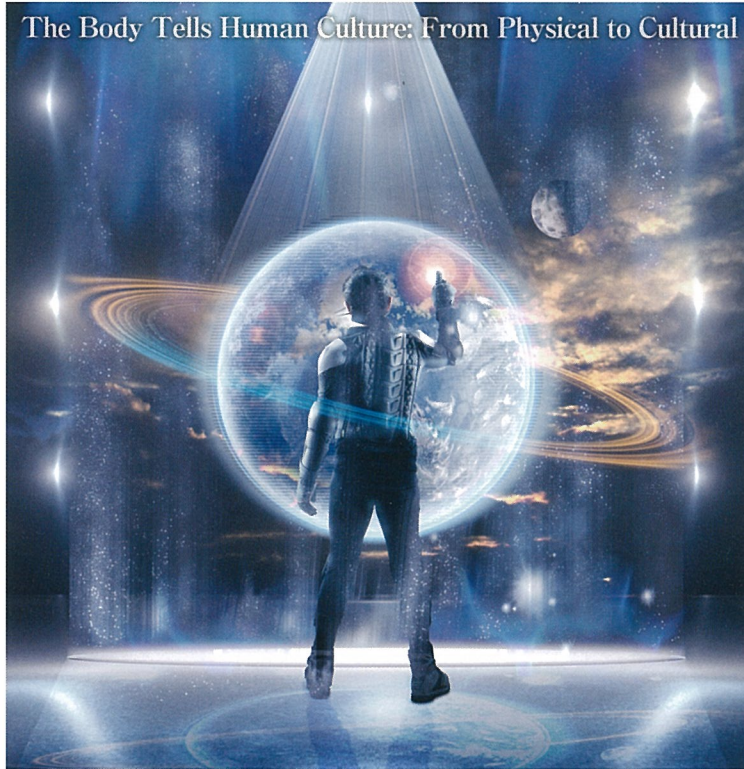


# “カラダ”が語る人類文化

— 形質から文化まで —

参加自由  
申込不要



**日時** 平成23年 **12月10日** (土) 10:00～17:00 **12月11日** (日) 10:00～17:20

**場所** 神奈川大学横浜キャンパス 16号館セレストホール ※受付9:30より

**国際シンポジウム** **12月10日** (土) 10:00～17:00

「非文字資料としての身体<sup>カラダ</sup> —“カラダ”で読む・表す・伝える—」

**基調講演** ・「日本人はるかな旅—身体に刻された跡—」馬場 悠男 (国立科学博物館)  
・「自然と共生するカラダ—修験道と身体感覚—」宮家 準 (慶應義塾大学)

Session 1 “カラダ”で読む —身体のうちとソト—

- 「皮膚の色が意味するもの—人種と人種主義—」 竹沢 泰子 (京大文学部)
- 「遺体を読む」 坂上 和弘 (国立科学博物館)

Session 2 “カラダ”で表す —心意と身振り—

- 「身体での共創表現」 西 洋子 (東洋英和女学院大学)
- 「身体とレトリック」 尼ヶ崎 彬 (学習院女子大学)

Session 3 “カラダ”で伝える —精神と肉体—

- 「異界をのぞく呪的なしぐさ」 常光 徹 (国立歴史民俗博物館)
- 「神霊の道であるシャマンの身体」 クネヒト・ベトロ (愛知学院大学)

**公開研究会** **12月11日** (日) 10:00～17:20

「海の民俗伝承と祭祀儀礼 —船による神の来往と身体表現—」

パフォーマンス「韓国巫女による龍王祭・刀上舞・神将舞の上演」

Session 1 研究発表

- 「韓国西海岸の送船儀禮研究」 李 京燁 (国立本浦大学)
- 「済州島巫俗のヨンガムノリと船送り」 姜 昭全 (国立済州大学校教職文化研究所)
- 「南台湾における和瘟送船儀禮の身体技法・パフォーマンスに関する分析」 謝 聰輝 (国立臺灣師範大学)
- 「タイ北部、ユーミエン(マオ)の船送り」 吉野 晃 (東京学芸大学)

Session 2 総合討論「アジアの身体表現の比較研究をめぐる」

※プログラムの内容等につきましては、変更する場合がございますのでご了承ください。



主催: 国際常民文化研究機構 神奈川大学日本常民文化研究所

後援: 日本学術会議 / 地方史研究協議会 日本文化人類学会 日本民具学会 日本民俗学会 日本宗教学会 日本人類学会 舞踊学会



# “カラダ”が語る人類文化 — 形質から文化まで —

## The Body Tells Human Culture: From Physical to Cultural

非文字資料として人間の身体“カラダ”はなにを語ってくれるのだろうか？

生身の身体そのものから挙措動作まで、その対象とする範囲は広い。近年その遺伝子情報の読み取りから人類の系譜についても明らかになってきた。神奈川大学21世紀COEプログラム「人類文化研究のための非文字資料の体系化」では、“歩く”という動作から人類文化をとらえる実験展示も試みられた。今回は、第2回国際シンポジウム「モノからみた人類文化」に引き続き、ヒトのカラダからなにが見え、何が明らかになるのかを総合的に検討する場としたい。

細分化されたヒトのカラダ、それに伴いヒトを対象化した学問も細分化している現在、改めて人間のカラダを全体的にとらえる必要性が高まっているといえよう。これはまた、自然科学と人文科学の融合を志向した日本常民文化研究所の創設者、渋沢敬三の願望にも連なることになる。

初日のシンポジウムでは、カラダの資料性をそれぞれの学問分野、研究視角から提示してもらい、それぞれをクロスさせ、統合することは聞き手のみならず委ね、2日目の公開研究会では、東アジアにおける船送り儀礼を具体的な題材にして、祭祀者・演者・巫者として自然やカミと交流する身体の表象、役割を多面的に論じる。本シンポジウムを通して、資料として示されるカラダの可能性とそのもつ意味を身体全体で感じて欲しい。

国際シンポジウム

12月10日(土)10:00~17:00

カラダ

「非文字資料としての身体—カラダで読む・表す・伝える—」

趣旨説明 / 佐野 賢治 (神奈川大学日本常民文化研究所)

総合司会 / 小熊 誠 (神奈川大学日本常民文化研究所)

基調講演

10:20~11:50

「日本人はらかな旅—身体に刻された跡—」馬場 悠男 (国立科学博物館)  
「自然と共生するカラダ—修験道と身体感覚—」宮家 準 (慶應義塾大学)

Session 1 “カラダ”で読む —身体の内とソト— 12:50~13:50

「皮膚の色が意味するもの—人種と人種主義—」竹沢 泰子 (京都大学人文科学研究所)  
「遺体を読む」坂上 和弘 (国立科学博物館)

発題・進行 / 佐野 賢治 (神奈川大学日本常民文化研究所)

Session 2 “カラダ”で表す —心意と身振り— 13:50~14:50

「身体での共創表現」西 洋子 (東洋英和女学院大学)  
「身体とレトリック」尼ヶ崎 彬 (学習院女子大学)

発題・進行 / 泉水 英計 (神奈川大学日本常民文化研究所)

Session 3 “カラダ”で伝える —精神と肉体— 15:05~16:05

「異界をのぞく呪的なしぐさ」常光 徹 (国立歴史民俗博物館)  
「神霊の道であるシャマンの身体」クネヒト・ペトロ (愛知学院大学)

発題・進行 / 高城 玲 (神奈川大学日本常民文化研究所)

質疑応答及び総括

16:15~17:00

司会・進行 / 西海 賢二 (東京家政学院大学)  
渡邊 欣雄 (中部大学)

公開研究会

12月11日(日)10:00~17:20

「海の民俗伝承と祭祀儀礼 —船による神の来往と身体表現—」

趣旨説明 / 野村 伸一 (慶應義塾大学・機構グループリーダー)

総合司会 / 泉水 英計 (神奈川大学日本常民文化研究所)

パフォーマンス

10:20~11:50

韓国巫女による  
龍王祭・刀上舞・神将舞の上演



【コーディネーター】田 耕旭 (高麗大専攻)  
【解説】洪 泰漢 (高麗大専攻)

Session 1 研究発表

12:40~16:05

「韓国西海岸の送船儀禮研究」李 京燁 (國立木浦大専攻)  
「済州島巫俗のヨンガムノリと船送り」姜 昭全 (國立済州大専攻耽羅文化研究所)  
「南台湾における和瘟送船儀禮の身体技法」  
パフォーマンスに関する分析」謝 聰輝 (國立臺灣師範大専攻)  
「タイ北部、ユーミエン(ヤオ)の船送り」吉野 晃 (東京学芸大専攻)

Session 2 総合討論「アジアの身体表現の比較研究をめぐって」16:15~17:05

司会進行 / 廣田 律子 (神奈川大学・機構運営委員)  
パネリスト / 野村 伸一 (慶應義塾大学) 金 良淑 (東京大学) 丸山 宏 (筑波大学)  
鈴木 正崇 (慶應義塾大学) 金 容儀 (全南大専攻)  
皆川 厚一 (神田外語大専攻)

総括

17:05~17:20

宮家 信平 (筑波大学)

※プログラムの内容等につきましては、変更する場合がございますのでご了承ください。

お問い合わせ先  
国際常民文化研究機構  
神奈川大学日本常民文化研究所  
〒221-8686 横浜市神奈川区六角橋3-27-1

TEL/045-481-5661 (代) FAX/045-413-4151  
http://icfcs.kanagawa-u.ac.jp/

- 東急東横線「白楽駅」下車 徒歩13分
  - 横浜駅西口/バスターミナルから横浜市営バスを利用(東神奈川駅西口経由約15分)
    - ①番乗り場36系統「菅田町」行または「緑車庫」行「神奈川大学入口」下車
    - ②番乗り場82系統「八反橋」行または「神大寺入口」行「神奈川大学入口」下車
  - 横浜市営地下鉄片倉駅から横浜市営バスを利用(約6分)
    - ①番乗り場36・82系統「東神奈川駅」または「横浜駅西口」行「神奈川大学入口」下車
- ※駐車場はありませんので、自家用車のご利用はご遠慮ください。

